

報告

第 52 回定期総会を開催しました

2023年6月3日（土）10:30～12:30

県教育会館 303 号室

台風 2 号の影響から関東地方南部に線状降水帯が発生し、それにより様々な警報が出され、JR は 6 月 3 日（土）千葉県の一部路線を計画運休にしたことから、当日は、総会の開催が危ぶまれる中でありました。10 時 30 分の定刻に 25 名の出席が確認され、委任状 184 名分を合わせて 209 名、会員 407 名の過半数で総会は成立し、安堵しました。

総会冒頭、逝去された会員（参照「物故者名簿」）に黙禱を行いました。高藤 丈世さんのリードで「緑の山河」斉唱の後、今年傘寿（1943 年・昭和 18 年生まれ）の会員（参照「長寿者名簿」）が紹介されました。

越川会長は「岸田政権は大いに危険。高齢者福祉についても組織として戦わないといけない。」と冒頭で挨拶をし、来賓の日退教事務局長 平岡 良久さんは「物価上昇による生活の厳しさ」「保険制度を守る」「戦争をさせない」を強調しました。坂本 雄一郎 千高教組委員長は、教員を取り巻く「観点別評価の厄介さ」「超過勤務と給特法問題」、そして今後「千高教組専従ゼロ」となる組合員減少状況について話しました。

議長には長生支部 安藤 雅弘さんが選出されました。議事進行は次の通りです。

（別紙の冊子「議案書」を参照ください）

第 1 号議案 2022 年度活動の総括と 2023 年度スローガン（案）・活動方針（案）について、平良事務局長から報告と提案説

明がありました。

第 2 号議案 2022 年度決算報告及び会計監査報告が会計 原さん、会計監査委員 三橋さんから行われ、次いで 2023 年度収支予算（案）を原さんが提案し、今年度から「親睦会会計」は「カンパ会計」へ繰り入れる事の説明がありました。

「**会費収入の今後**」について、参加者から意見等が出されました。主なものは次の通りです。

（質問）89 歳を迎えて「会費免除」となる会員が今後増えてくると考えるが、見通しを示してほしい。

（会計答弁）年度を追うに従って「会費免除」該当の会員は増えていくことが予想され、高退教の会計（会費の値上げを含む）や活動内容全体を検討して行く必要がある。今後 2 年間程度を目途として、事務局会議、拡大幹事会を経ながら協議し、総会に提案をしていきたい。

（意見）今まで過去数回、会費の値上げがされている。その都度値上げが必要な状況があっただろう。例えば現在、高退教会計の収入に「高教組」からの助成があるが、これを辞退し、このことを根拠に「会費値上げ」を考えることはできるのではないか。

（会計答弁）今年度はゼロと考えていたが、慣例により助成を受けている。高教組に負担を掛けたくない思いはあり、例えば印刷をさせてもらっている書記局の印刷機のインク代（約 3 万円）を本会から出していたりする。（以下第 2 面に続く）

第 3 号議案 2023 年度役員（案）が、支部幹事の欠員状況等の説明を含め提案されました。

採決の結果事務局提案の第 1～3 号議案は、出席者の拍手多数により承認されました。

なお、事務局からその他の連絡として、「教育芸術祭への参加」（別紙参照）の要請がありました。（他団体と比較すると高退教はやや少ないので。ㄨ切は 7 月 21 日）

参考資料

(1) 会費免除年齢（89 歳以上）該当者数

2021 年度	49 名	会員数	422 名
2022 年度	54 名	〃	420 名
2023 年度	67 名	〃	410 名

(2) 会費金額の変遷

（千高退教「50 年のあゆみ」より）

1972 年結成	300 円	会員数	110 名
1975 年	500 円	〃	165 名
1977 年	1,000 円	〃	179 名
1981 年	1,500 円	*1980 年会員	219 名
1985 年	2,000 円	会員数	不明

恒例！第 52 回総会 川柳作品の優秀句

「田や岸はのどかにも蛇が居て」
（印旛支部 笹川明則）

「核抑止 あろうことかヒロシマで」
（県外支部 渡部秀清）

（以上文責 事務局 嶋田）

2023 年度 千葉県高退教親睦研修旅行

千葉県北総地帯の古墳を巡る旅 の見どころ

香取支部 新井 勝治

その昔、いま千葉県といわれる房総半島は、水に囲まれたいわゆる島の形をしていました。香取支部のある北総地帯は、北に深い太平洋の内海、南に北総台地に挟まれた水辺に暮らしながら、上流からの数多の川の流りに翻弄されつつも、水流がもたらす宝物を手に入れて文化の歴史を紡いできた所です。台地や小高い丘などには、沢山の古墳や貝塚が散在しています。これは、千葉県内ではめずらしい立地であるとい今でも、JR の成田線沿線や国道の側には前方後円墳がきれいに残っています。その多くは頂上に神社が祀られています。遠方から緑の高みを望むことが出来ます。

匝巻は、現在の県立小見川高校と小見川中学校のある城山公園です。山全体が古墳で、小見川支所には、ここで発掘された長剣や動物の埴輪等が保存されています。

さらに、静かな台地へ上って行くと、阿玉台の貝塚群と古墳群があります。ここは、桓武平氏の一人である平良文が晩年を過ごした土地として知られています。平将門とは姻戚である平良文は、学術的には、武蔵と相模の国で「村岡五郎」と称して勢力を振るったとされていますが、良文という地名、樹林寺の存在、広大な良文貝塚等によって、十分に当地こそが平良文の終焉の地であるという信憑性に疑いをはさむ余地はないでしょう。地面からあふれてこぼれ出んばかりの貝塚の広がる田園も一見の価値があります。 （第 3 面に続く）

今ではとても静かな山村ですが、平良文の時代に沢山の住民がこの地で暮らしていたことを想像することができます。

初代の千葉氏である常重が、夢に出た良文の愛でた夕顔の花に因んで樹林寺という寺を建立させたという頼もしい言い伝えもあります。さらに、良文貝塚から堀出した人面土器の本物が見られないのが残念ですが。

千葉市は、いま、市制 150 年を標榜していますが、千葉氏の遠祖である平良文の存在は曖昧なままにされている感があるのは残念です。今年こそ、平良文の終焉の地を沢山のの人に訪ねていただきたいものです。

下って、江戸時代ともなれば、利根川の瀬替えによって新利根川が開かれて、江戸と北総との人々の交流が盛んになりました。江戸歌舞伎の二大家柄である松本幸四郎と市川団十郎は北総の地と大いに関係があります。初代松本幸四郎は小見川藩の中心で生まれ、佐原の小間物屋の高麗屋で奉公をしました。団十郎は甲府の市川から成田の在に居を定めた父親が、のちに江戸へ出て粋な生業につき、その長男が歌舞伎役者になりました。残念なことに、舞台上で刺殺されるという勇み肌の生き方をした役者です。松本幸四郎家は団十郎家から養子をとって、代々の団十郎を継承させていったという深い関係にあります。

佐原も江戸時代に、こんな小さな村が水運によって江戸と繋がったがゆえに、江戸との交易がもたらした富ははかり知れません。文化や学問の世界にも影響を及ぼして、数多くの学者や文化人が生まれました。

また、観福寺には、幕末から明治初めにかけて水戸藩の影響の大きかった廃仏毀釈運動の結果、香取神宮の別当寺から廃棄された仏像のうち数個の架け仏が生き残って

います。

古代と江戸時代を数時間で巡回しますので、時間的にはきりきりで、満足のいくご案内ができそうにもありませんが、足に自信のある方にはぜひ参加していただきたいと思います。

最後になりますが、佐原から房総の奥深くまで利根川から灌漑用水を送る「両総用水」の機場があることも忘れてはなりません。

実施日 2023年10月28日(土)

※申し込みは、9月30日(土)までに！

(詳細は別紙申込用紙をご覧ください。)



香炉顔面付土器 (こうろがたがめんつきどき)

http://www.city.katori.lg.jp/culture_sport/bunkazai/isan/isan_vol021-030.html

65歳からの学問のすゝめ

船橋支部 みつはし ひさお

現役を退いて、はや7年になります。退職したらやりたいと思っていたことのひとつが、じっくりと古典のテキストを読み込むことでした。現役時代には仕事に追われて時間がとれず、知っているつもりになって(もちろん、基本的知識はあるのですが)生徒に教えていたことを、生のテキストではどのように記述されていたのか、読んでみたかったです。(第4面に続く)

というわけで、仲間を募って、ルソー「社会契約論」の学習会を始めました。その後、近代ヨーロッパ思想を中心に、デカルト、ロック、J.S.ミル、フッサールなどを読み、現在はベルクソン「時間と自由」を読んでいます。さらに並行して、ラッセル「哲学入門」を始める予定です。

日常を離れ、学問の最深部に触れ、いろいろな人の意見を聞きながら、ともに考え、議論することは、とても楽しいことです。ひとりで本を読んでいると、袋小路に陥り、抜け出すのが困難になることがあります。学習会でいろいろな人の読みかたに接することによって、袋小路を容易に乗りこえることができるのは、とても大きなメリットです。

多くの人は、時計の文字盤のように、時間を空間の中の量のように考えていますが、本来わたしたちが経験している時間は、数量化することができない純粋な質なのだ、と、ベルクソンは主張しています。そして、それは言葉にすることが難しいと言います。それに対してラッセルは、言葉にできないことは学問の対象にはならないと主張するでしょう。二人の主張をどう調整すべきか。なんと楽しいことではありませんか。

このようなことに関する問題圏は、現代哲学のみならず、心理学、脳生理学、認知科学、ロボット工学、情報科学、AI研究などに及びます。チューリングが提起したように、心を持ったロボットを作ることはできるのでしょうか。AIは人間と対立するのでしょうか。考えてみたいことは、限りなく広がります。

さて、このような学習会を、月2回のペースで、市川で開催しています。こんな酔狂な趣味をお持ちのかたは少ないと思いますが、頭の体操のつもりで一緒にやりませんか。ご連絡をお待ちしています。きっと、老化防止に効果があると思いますよ(?)。ただし、体力低下防止の効果は期待できませんので、筋トレ、ウォーキングなどとの併用をお勧めします。

今後の活動予定等について

9/19 (火) 退職者連合高齢者集会 (1名)

安房支部担当

9/20 (水) 地公退高齢者集会 (1名)

君津支部担当

10/12 (木) 五者合同学習会 (2名)

市原・千葉支部担当

10/13 (金) 組織活動交流集会 (3名) 詳細は後日

*「原発いらない金曜行動」(首相官邸前行動)

8月18日(金) 午後6時30分 です。

*「今年度、大雨等の被災状況調査」について

日退教より依頼あり。該当者は、事務局の平良(0438-98-7417)まで連絡下さい。

(文責 平良事務局長)

岐路21

船橋支部幹事 長澤淑夫

是枝裕和監督『怪物』を観た。カンヌ映画祭で脚本賞を坂元裕二が、映画は「クイア・パルム賞」を受賞し、故坂本龍一音楽も話題となった作品。シングルマザー安藤サクラの子ども湊と、シングルファザーとおぼしきアル中男性の子ども依里の友情っぽいやり取り、二人が通う小学校の教育熱心な若い先生というふたつの焦点で話は構成されている。学校でおきた事件をさまざまな立場からは全く違って見えることを複雑な組み立てで表現している。「藪の中」的であるとの批評もある。イジメをする生徒がいて、子どもを虐待するアル中父はまあ悪い人かと思う。自己を取り巻く学校の環境は、私の経験ではこの二人湊と依里の経験したことと似ている。それはままたまならない所与であり、周囲は多数派で自分は少数派と感じて私は学校生活を送っていた。今思うと、私からみていやなヤツらもたぶん周囲の環境を良くは感じていなかったかもしれない。映画からは、悪も善も単純、単独では存在しないとも取れるし、出来事をめぐり人間は、思わずウソをつき、その感情はネジれ、歯ぎしりし、迷い歩くとも言えるか。

周りの人間はそれに翻弄されつつ、真実追求派と組織防衛派に分かれるとも言えるか? 話の進行に緩急があり、その展開と構成は意外性に富み、十分楽しめる映画である。怪物は何かを考えながら、観た人はそれぞれ映画館を去るだろう。

(編集後記) 高退教だより第178号を送ります。

(編集係 小鳥)